

# アクセスマネジメントシステム

野沢俊治\*  
笹川耕一\*\*

## 要旨

近年、我が国においても社会情勢の変化などからセキュリティシステムに対する関心が高まってきているが、普及拡大のためには、人的警備に勝るコスト効率が要求される。特に公共空間や重要施設などでは、大規模なエリアを遠隔で効率良く確実に監視する必要がある。このようなニーズに対応するため、現状のセキュリティシステムに加え、以下のような機能拡充・強化を図ったアクセスマネジメントシステムの検討を行っている。

### (1) エリア管理

- 個人の在場エリアや在場時間、通行経路の把握。エリアの在場人員の把握
- エリアのセキュリティレベル、時間帯、在場人員等

に対応した認証信頼度の動的変更

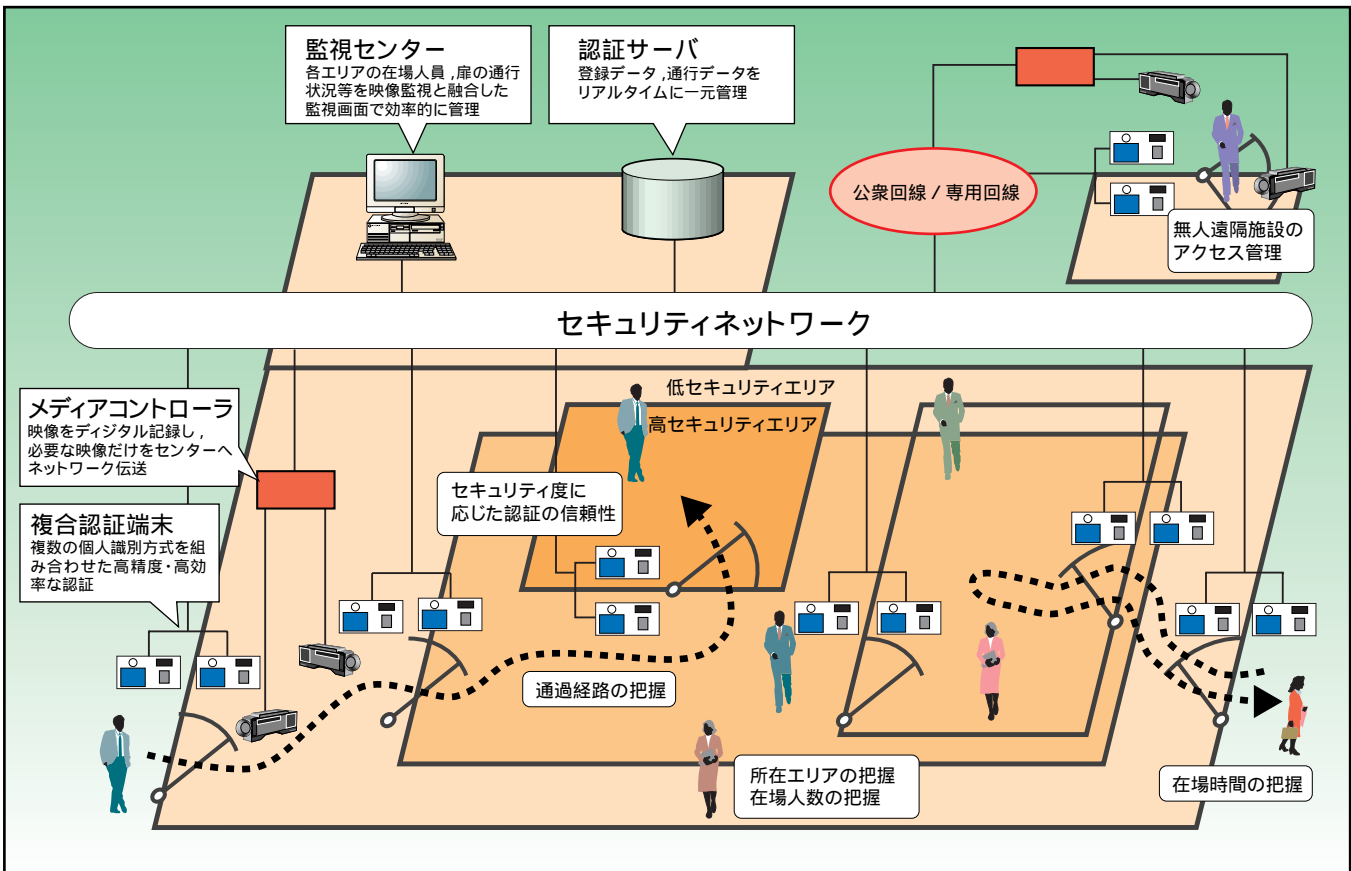
### (2) 個人識別の高度化

- 複数のバイOMETリック方式を組み合わせ、利便性と信頼性の両方を向上
- 個人の照合特性に適応し、動的に照合パラメータを変更

### (3) マルチメディア監視技術の適用

- 照合時に自動的に通過する人を記録
- 照合失敗時や照合度が低い場合には自動的にアラームを出し、監視センターに映像表示
- 侵入等のアラーム発生前後の映像を自動記録

本稿では、これらの機能の概要について紹介する。



## アクセスマネジメントシステム の概念

エリア全体での人の所在を管理する面的なセキュリティを少人数で効率的に実現することを目指す。このために、遠隔で多数の扉やエリアの状態を確実に管理できるよう、①複合認証端末による高度な個人認証、②メディアコントローラを利用した映像監視、③エリア全体の認証端末の状態をリアルタイムで一元管理する認証サーバ、等の技術開発を進める。